

# 岡山市民会館・市民文化ホールあり方検討会 発言要旨（視点別）

## 【ハードウェア】の視点

		規 模	構造・設備	機能	立地その他
ホール	大ホール	<p>【席数】 現市民会館をベースに ・同規模プラスで1,800～2,000席 ・同規模で1,500～1,800席 ・使用実績から1,000～1,200席 ・シンフォニーホール並の席数(2001)は不要</p> <p>【舞台】 ・広いステージ、舞台裏、舞台袖、バックヤード、高いスノコ高 ・四面舞台は関西や九州からの集客に期待 ・四面舞台や大規模な迫り(せり)は必要ない</p> <p>【搬入口】 ・大型トラックを留置できるスペース ・ステージフラットで障害のないアプローチ</p>	<p>【客席】 ・席数可変タイプを ・質を向上、間隔広く</p> <p>【舞台】 ・舞台機構、音響、照明は高機能のプロ仕様を ・十分なバトン数</p> <p>【配置】 ・合築なら音と振動の不干渉</p>	<p>【用途】 ・優れたプロ芸術鑑賞 ・音楽を主体 ・シンフォニーとの棲分け ・コンベンション等と共用可</p>	<p>【立地】 ・公共交通機関の利便性(駅から近い等) 又は駐車場併設</p> <p>【デザイン】 ・魅力的な建築物 ・都市格にふさわしい外観、内装 ・自然光を取り込む ・バリアフリー ・E S Dの概念を ・運営者、主催者、利用者とも使いやすい施設</p> <p>【整備手法】 ・新しいP F I手法の研究 ・他都市の事例 ・行政の役割明確に ・劇場を知る設計者 ・多くの市民の関与(当事者意識)</p> <p>【その他】 ・岡山市文化芸術振興ビジョンに「つくる」を加え、これを体現できる場に</p>
	中ホール	<p>【席数】 ・900席の演劇専門劇場 ・600～900席の演劇ホール ・600～800席の多目的用途のホール ・600席クラスはイオンモールと競合し不要か</p>	<p>【舞台】 ・造りつけと備品の使い分け</p>	<p>【用途】 ・優れた芸術鑑賞 ・プロ演劇と市民の創造の場 ・機能選択と設備で多目的に ・演劇ホールは音楽も兼ねる ・大ホールとは別の性格を</p>	
	スタジオ	<p>【面積】 ・広いバックヤード、アトリエ</p>		<p>【用途】 ・作品創造や作業場</p>	
	リハ練習室	<p>【席数】 ・創造の場として300席程度</p> <p>【面積】 ・ステージと同サイズ</p>	<p>【形態】 ・ブラックボックス型又はフリースペース型</p> <p>【設備】 ・モニター設置を</p>	<p>【用途】 ・リハースル ・市民活動の支援</p>	
	楽屋	<p>【室数】 ・十分な楽屋数確保</p>	<p>【位置】 ・ステージと同一階に</p>		
市民・共用スペース	ロビー	<p>【面積】 ・広いエントランスロビー。 ・雨天時に館外に客を並ばせない広さ</p>		<p>【用途】 ・にぎわいと交流の場</p>	
	ギャラリー		<p>【仕様】 ・アート展示や販売ができる造り</p>	<p>【用途】 ・様々な市民の表現の場 ・作品展示や販売スペースで若者の利用に</p>	
	会議室		<p>【仕様】 ・気軽に立ち寄れる造り</p>	<p>【用途】 ・市民も利用</p>	
	フリースペース			<p>【用途】 ・様々な市民の表現の場 ・気軽な交流スペース</p>	
	その他	<p>○和風ホール ○情報コーナー ○屋外練習場 ○親子室、親子遊び場、託児スペース ○自習スペース ○カフェ ○女性トイレを多く、すべて洋式に。</p>		<p>【用途】 ・様々な市民の表現の場 ・うらじゃの練習場 ・ユーティリティ ・交流・くつろぎの場</p>	

## 【ヒューマンウェア】の視点

	施設の管理運営	質の確保・効率性
対応策	<p>【管理運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市スポーツ文化振興財団と岡山シンフォニーホール財団を一体化し、現在の文化施設を包括的に管理させるべき。</li> <li>公益財団による運営は、長期的計画のもとに都市のブランドをつくる。</li> <li>公立文化施設に指定管理者公募が必要なのか疑問。</li> <li>行政、民間、利用者、芸術家が一体となった管理。</li> <li>NPO、ボランティア、市民が主体的なアイデアを出して、創意工夫が図られる運営。</li> </ul>	<p>【芸術監督】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業の企画立案、市民や地域と一緒に遂行できる芸術監督が必要。</li> <li>芸術監督制度は全国の先進事例を参考に。</li> <li>芸術監督は常駐し現状を把握する専門家または市出身の人材を。</li> <li>芸術監督が必要であるくらいのクオリティを求めるべき。</li> <li>芸術監督が芸術文化活動をリードすることは疑問。</li> </ul> <p>【人員・人材】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技術監督と経営監督（GM・窓口サービスのトップ）を置く。</li> <li>中部のある文化施設では、施設間で任期満了した優秀な人材を交代で配置している。</li> <li>良い劇場には若い創造的な人材、有望な芸術家が活躍している。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民が利用しやすい施設運営、料金体系を。</li> </ul>

## 【ソフトウェア】の視点

	期待する事業	地域活性化策
対応策	<p>【実施すべき事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間延べ3万人を動員する市民劇場は、鑑賞の核となる。</li> <li>地域に施設が根を生やしてゆくには「創る」ことが重要。</li> <li>大都市の有名劇団・楽団と契約を結び、本公演や市民との共同制作、ワークショップ等を行うことも方法の一つ。</li> <li>公演までのプロセス（支援体制や公開練習等）を重視した取り組み。</li> <li>芸術文化団体の活動を支援する取り組み。</li> <li>文化芸術に関する多様なワークショップ。</li> <li>岡山フィルハーモニック管弦楽団と岡山市ジュニアオーケストラの一体的運用。</li> <li>若者による空きスペースを使った音楽、ダンス、アート、カフェなど。</li> </ul>	<p>【活性化策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞だけでなく、市民の参加交流が活発にできるもの。</li> <li>芸術家、文化団体によるワークショップやアウトリーチ事業。</li> <li>芸術家の指導や共同制作により、市民を創造の担い手として育成。</li> <li>大学・短大、まちづくり団体等との連携。</li> <li>地域の資源や芸能を活かす取り組み。</li> <li>屋外で音楽や演劇等の行う若者の活動を支援できる施設運営。</li> <li>街のアイデンティティの認知は、演劇の根っこをつくることから広がる。劇場をまちに開放することも重要。</li> </ul>

## 【その他】の視点

	岡山らしさの発信	施設の位置づけ・その他
対応策	<p>【都市格の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ESD先進市という概念を引き続き発信することが、ブランド力、岡山らしさに繋がる。</li> <li>歩いて回れる城下町岡山の良さを生かすためには、まち全体のランドデザインの中で施設を考える必要がある。</li> <li>文化芸術活動と市民をつなげることができる施設。</li> <li>まちづくりに熱心な若者や地元出身の芸術家を施設を結びつけて、地域を変える取り組みに繋がられるのでは。</li> </ul>	<p>【位置づけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岡山の地の利を生かし、優れた劇場等を整備することで芸術文化を呼びこみ、街のにぎわいと活性化をつくる。</li> <li>県都岡山として、広域的な役割を担っていく必要がある。</li> </ul> <p>【検討項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>劇場に行かない人や若い世代、様々な公演ジャンルの方々からの十分なヒアリングを。</li> <li>文化芸術振興基本法や劇場法の趣旨も踏まえ、芸術家・創る側の環境整備や支援が必要。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会議施設と文化施設の兼用については、設置目的や設備仕様が異なり、利用頻度からも過剰投資になるので避けるべき。</li> </ul>

## ◎望まれる理念・目的等

<p>【理念・目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術振興基本法や劇場法等の趣旨を踏まえ、創造機能や社会包摂機能の理念を持った地域文化の拠点。</li> <li>市文化芸術振興ビジョンの4つのテーマに、「つくる」に加え、それらを施設の理念として体現させる。</li> <li>地域に根ざし、芸術文化の拠点として、市民が生き生きと集い交流できる劇場。</li> <li>若者から高齢者、子どもたちから障がい者、あらゆる人が行きやすく、快適に鑑賞できる使いやすい劇場。</li> <li>多くの芸術家の創作意欲をかきたて、創造活動を行うことができる劇場。</li> <li>子どもたちが憧れる「文化の殿堂」、創造力を育む文化施設。</li> <li>用事がなくても行きたくなる場所、そこに行けば何かがある、様々な出会いのある、人の集まる愛される建物。</li> <li>岡山の特色を出せ、岡山でしかできないもの。</li> <li>「使いやすく、わかりやすく、心地よい」をキーワードにした施設。</li> <li>建物自体に魅力があり、日々多くの市民が出入りする空間。</li> <li>対外的に政令指定都市岡山という街のファーストインプレッションを与えられる「都市の顔」となる文化施設。</li> </ul>
--